

氏名	家 保 英 隆		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博甲第 7 6 8 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成元年 3 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)		
学 位 論 文 題 目	精神障害者の死亡と死因に関わる社会医学的要因		
論 文 審 査 委 員	教授 大月三郎	教授 緒方正名	教授 庄盛敏廉

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

高知県下の保健所が把握している精神分裂病者とアルコール中毒者について、一般住民に対する相対死亡比と死因を分析した。登録者で昭和58年から62年の間に死亡した者を対象に、昭和60年の高知県住民の死亡状況を基準として相対死亡比を求めた結果、精神分裂の男性、女性及びアルコール中毒者の男性で有意に高い相対死亡比を示した。年齢群別に区分してみると、両疾患とも若年群（30－49才）の方が高年群（50－79才）より相対死亡比が高く、若年群での過剰死亡の改善が課題と考えられる。精神分裂者では、男女とも自殺、心疾患、肺炎、不慮の事故で有意に高い相対死亡比を示し、性別で比較すると、女性の方が相対死亡比は高かった。アルコール中毒者では、慢性肝疾患、自殺、心疾患、不慮の事故、肺炎、脳血管疾患で有意に相対死亡比が高かった。精神障害者における過剰死亡を防止するには、精神医療の発達に伴う地域精神衛生活動の効果的な展開が必要と考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は高知県下の保健所が把握している精神分裂病者とアルコール中毒者について、一般住民に対する相対死亡比と死因を分析したものである。地域を基盤にした精神障害者の死亡の実態を明らかにしたものとして、社会医学的に価値ある業績であると認める。よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。